

2020  
2月号

# 原水協通信

国連NGO原水爆禁止日本協議会

毎月1回6日発行

頒価 220円

電話 (03)5842-6031

FAX (03)5842-6033

〒113-8464 東京都文京区湯島 2-4-2-4



原水爆禁止大阪府協議会 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第3ビル210号 tel(06)6765-2552 fax(06)6765-2837

## 被爆75年 関西から歴史的な年にしよう! …関西原水協学校…



非核の政府・自治体・ヒバクシャ・市民の共同の力で  
2020年に核なき世界を、核兵器禁止条約の発効を!

新年恒例の関西原水協学校が滋賀県守山市で開催されました。

一日目の講義は、「2020年・被爆75年―核兵器廃絶の転換点にしよう―一人一人の行動が世界を変える―」と題して日本原水協土田弥生事務局長が、豊富な国際会議の経験を通して今年の重要な原水爆禁止運動の課題を講演されました。

まずはじめに、2020年の幕開けが核保有大国の横暴さが、人類生存に大きな危機を与えている状況だと指摘

摘。国連のグテーレス事務局長は「核兵器による差し迫った危険は、単なる仮定や遠くはるか遠い将来のものではない。それは現在リアルに存在するものだ」と危機を訴えています。

具体的には、トランプ政権のイラン合意からの離脱でイランNPT脱退示唆、戦争の危険が醸成されています。人類生存の二つ危機(①大量破壊兵器②気候変動の緩和や適応の失敗)の解決に責任を負うべき国々が、危機の原因を作り、解決策を示すのではなく、さらに悪化させている、これこそが危機だと指摘します。

なぜ、2020年を廃絶の転換点にするのか?核兵器廃絶は、今やらなければ取返しがつかない課題だからです。その2020年、世界大会NY・国際共同行動が準備されています。NPTの逆流を許さず、核兵器をなくすとの核保有国の明確な約束の実行をせまる闘いです。核保有国・核の傘の国々は、2000、2010年の約束を「時代遅れ」とし、実行する気はなく、イランのNPT離脱の動きと安全保障環境の強化を理由に核兵器禁止条約とNPTとは矛盾するとして無視し続ける姿勢です。一方、非核国はNPT第

6条と「核兵器廃絶の明確な約束」の合意の実行を迫り、禁止条約はNPTと矛盾するものではなく、NPTの目標達成においても不可欠と主張し、全面对決の状況。NPT会議の直前に開催される世界大会を成功させることは、非核国と連携し、核保有国を国際世論で追い詰める重要な闘いです。



▲終末時計を報じる朝日新聞(1月24日)

講演のあと、各府県の交流が行われ、ユークス加者が決意を表明しました。大阪からは、



大阪平和委員会の片方真佐子さん、神野淳一さんの二人(上の写真)があいさつしました。二日目は日本被団協の木戸季市事務局長の「被爆75年を迎え、被爆者運動の現状、仮題、展望」と題して講演がおこなわれました。参加者は延べ140名、大阪からは21名(被爆者は5名)でした。

そして、被爆国の運動は、重要な位置をしめています。禁止条約に反対し、「橋渡し役」を主張する安倍政府は、今や廃絶の妨害勢力となっています。昨年の国連日本決議案は核保有国による「明確な約束」その他の合意も削除し、核廃絶を究極のゴールと先送りする近年最悪の決議案です。元国連軍縮担当上級代表のセルジオ・ドゥアルテ氏は「橋の片っぽしかかかっていません」と核保有国の代弁者にな

っていることを批判されています。最後に土田氏は核兵器のない世界実現への可能性・展望について、「今は困難があっても、やりがいのある時期」とオーストリア代表の言葉を紹介し、核兵器反対の市民社会と国家の圧倒的多数のユニークな共同が、大国の横暴を抑え込んで世界の方向を決めるに重要な役割をはたしている、と指摘します。人類の生存と正義のために、世界で人びと(若い世代も含めて)行動し未来の流れをつくっている、その結節点が今度のニューヨーク行動です。

### 核兵器禁止条約批准国

1月23日南アメリカのパラグアイが批准  
**35か国(あと15か国で50か国に)**

### ヒバクシャ国際署名数

59万 1421 筆 (1月28日現在)

2020年100万筆、あと42万筆を集め国連に届けよう!

【用語解説】NPT条約第6条「核兵器の不拡散に関する条約」1970年発効した多国間条約。署名・批准した国は、英国・ソ連(ロシア)・米国にその批准書を寄託することになっている。全12条のほとんどが非核保有国に関する条約で不平等な条約という問題点がある。その第6条が「全面的かつ完全な軍備縮小に関する条約について、誠実に交渉を行うことを約束する」との核保有国への縛りがあり、長い歴史の交渉(闘い)中 2000年NPT再検討会議全会一致で「核兵器廃絶の明確な約束」を合意しました。



2020年世界大会 in NYに88名内定！
～被爆者をはじめ小学生から84歳幅広い参加者～

原水爆禁止世界大会 in ニューヨーク
賛同していただいた府下の自治体首長
口藤井寺 岡田一樹市長
口高石 阪口伸六市長
(1月27日付到着分掲載)
大阪原水協では府下自治体の首長に日本被団協、日本原水禁、日本原水協、ICANなどがよびかけている4月からはじめ

原水協通信（大阪版）
なるようにしていきま
そのための打ち合わせなど
回にわたって会議（壮行会含
む）を予定しています。
一回目は2月21日（金）
午後6時半、エルおおさか南
館（府立労働センター）で「壮
行会兼学習会」を実施します。

現在（1月末）、大阪原水協に登録されているニューヨーク参加者は8名です。個人9名、労働11名、地域3名、団体65名です。平均年齢は54歳、最年齢者は84歳、最年少は小学生11歳です。ニューヨークまでは、関空コースや成田羽田コースにわかれて行きますが、現地での行動は一緒に

案内板
\*2月14日（金）午後7時～
団体・地域代表者会議（府社会福祉会館）
\*2月21日（金）午後6時半～
NPTニューヨーク世界大会壮行会（エルおおさか南館）
\*2月28日（金）午後1時半～
ノーモアヒバクシャ高裁裁判（高裁81号）
\*2月29日～3月1日（日）
2020年3・1ピキニデー集会
9:20 新大阪駅千成ひょうたん前
9:43 新大阪発ひかり462号乗車
詳細はHP参照

学習（講演）は、世界大会国際会議宣言の起草委員長の富田宏治さんをお願いしています。この会議でニューヨーク参加者の現地に着るお揃いのTシャツをお渡しします。二回目は4月4日（土）午後2時から国労会館です。旅行者業者（日通旅行）からの説明や班編成をして現地グループ行動ができるようにしていきます。これが最後の会議となります。現地での活動のためにちよつとした英会話の勉強もします。参加をお願いします。



▲2010年NPTの際、広島・長崎両市長と国連事務総長とNPT議長に要請している



大阪地裁不当な判決！
…原爆症認定制度の趣旨を無視したものを…
1月31日、大阪地裁第2民事部で原告3名に対し、国家賠償請求を認めず、大腸がんなどの疾病申請した1名については、従来の判決を継承して申請を認めず、食道がん、心筋梗塞を申請した原告2名については、申請を認めない国の判断を認める不当な判決となった。被爆者に対して急性症状及び入市の事実について厳しい立証を課し、さらに「その放射線被曝量がどの程度かを具体的・定量的に認めることはできない」とする当時の状況からみて被曝線量の確定は到底不可能なことを求める不当な判決となっています。訴訟原告団は以下

相次ぐ学習会！
2020年NPT再検討会議&原水爆禁止世界大会 in ニューヨーク成功にむけて

- ◇1月15日 水協
◇1月18日 新婦人
◇1月21日 トフェアー
◇1月24日 新春懇談会
◇1月27日 川地域労組
◇1月30日 26日大阪北部うたごえ協議会
◇2月1日 31日大阪労連（写真）
◇2月3日 2月13日 鳳クリニック
◇2月22日 王寺平和委員会などです。

4月24日から始まるニューヨークでのNPT再検討会議を契機とするため、その前段で準備されている原水協禁止世界大会の成功に向けて、各団体では相次いで学習会が取り組まれています。
◇12月21日、高槻原水協
◇1月15日、新婦人
◇1月18日、トフェアー
◇1月21日、新春懇談会
◇1月24日、川地域労組
◇1月27日、26日大阪北部うたごえ協議会
◇2月1日、31日大阪労連（写真）
◇2月3日、2月13日、鳳クリニック
◇2月22日、王寺平和委員会などです。

- 1. 「新しい審査の方針」の誤りを認め、これを変更し、全原告を救済すること。
2. 被爆者が「裁判する必要があるように」被爆者援護法と原爆症認定の在り方を抜本的に改め、被爆者の命のあるうちに問題を解決すること。
3. 唯一の原爆被爆国として核兵器の非人道性を国際世論に訴え、核兵器禁止条約に加入し、核兵器廃絶国際運動の先頭に立つこと。



国際署名にご協力を
大阪原水協が作成した「被爆者は核兵器廃絶を心から求めます」ハガキが事務所に約1000通届けてられています。皆さんの熱い思いがメッセージに書かれています。（第一回）

Handwritten messages from participants:
- '原爆は一瞬にして平和な毎日と地獄と化します。'
- '核兵器廃絶は環境保護（地球規模での）の上からも重要なことです。'
- '核兵器を世界からなくして、安心して暮らせる地球を早く実現！'
- 'いわずさきちるさんの絵が、先ず、私の心の中の平和への深い想いに触れてくれました。'
- '私の父は沖縄で23歳の時に戦死しました。母は4人の子どもを苦労して育てくれました。'
- '今年SSXで、初めて広島に行きました。AAに燃料油がリサイクルされたことと知り、子供らに小学校の修学旅行で、勉強の傍で見学した時に聞いた事と確認したい。改めて、核兵器廃絶を求めます。'